

JSCA千葉ニュース(春)

発行(社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報委員会)
〒262-0031千葉県千葉市中央区長州1-14-1 飯島建築構造事務所内 TEL 043(221)5131
FAX 043(221)5133

21世紀2回目の JSCA千葉新年会開催

特別講演は(株)山下設計、岡本隆之祐博士の

「ニューヨーク世界貿易センターの崩壊について」

去る2月13日(水)JSCA千葉の新年会が千葉市のバーデイホテルで開催された。第一部は午後三時から表題の特別講演が行われ、90名を超える多方面からの出席を得た。WTCの崩壊理由は諸人の関心事であるが、この講演により学ぶことが多かったものと期待する。(二面に会員レポートあり)



岡本博士による講演

午後五時すぎから第二部として講師及び大学教授を交えた懇親会が開かれた。

今年度は、総会決議事項である会員規約、その改正後に懸案となっていた、県内在住会員及び協力会員との初めての顔合わせとなる。宴半ばで6名の在住会員の紹介が行われた。(三面に紹介記事有り)

また協力会員は参加者リストには8社出席のところ、写真を見る限り12社の出席である。各社の自己紹介が行われた。

JSCA千葉の第三部は恒例とはいえ、例年にない盛況となった。講師の岡本先生、学会会員、在住会員、協力会員その総数30名余が付近の居酒屋に集い、更に懇親を深め、夜は更けていった。

その帰路、稲毛方面で途中下車し、在住会員を含む数名のグループが第四部を開催し、景気回復に貢献したとされるが写真がなく、もはや定かではない。

(安田)



特別講演の開演前風景(手前は飯島代表)

JSCA千葉役員会議事録抜粋(相山)

<p>役員会 代表 飯島 宏治 副代表 真崎 雄一 齋藤美佐男 総務委員会 向後 勝弘 相山 誠治 服部 信幸 会員委員会 青木 光年 細川 正三 研修委員会 真崎 雄一 舛田 卓也 園部 隆夫 広報委員会 齋藤美佐男 安田 良一 技術委員会 市原 嗣久 坂恵 一巳</p>	<p>平成13年度第8回 11月19日(18:00~20:00) 出席、飯島代表他8名 1) 協力会員の入会審査、日本コンクリート工業株式会社承認、ショーボンド建設株式会社承認 2) 千葉県在住会員のアンケート結果と対応、発送246名中(回答率18.7%)参加したい30名、参加できない16名 平成13年度第9回 12月20日(18:00~20:00) 出席、飯島代表他7名 1) 新年会の開催準備について—真崎氏担当</p>	<p>講演会:「ニューヨーク世界貿易センターの崩壊について」 講師:株式会社山下設計常務 工学博士 岡本隆之祐先生 2) 千葉県在住会員30名・協力会員12社について新年会に招待し当日、会員リストを配布して紹介する。3) 各委員会活動報告、広報誌はA3表裏印刷4頁(案) 平成13年度第10回 2月4日(18:00~20:00) 出席、飯島代表他11名 1) 講演会・新年会の開催準備について、役割分担についての協議 2) 屋内体育館の耐震補強研修会</p>	<p>の準備3) 振動解析入門・限界耐力法解説—技術委員会が対応(70名位予定)構造計画研究所の協力により開催。講演会は4回のシリーズで行う。4) RC耐震診断基準改定に伴う講習会 平成13年度第11回 3月15日(18:00~20:20) 出席、飯島代表他9名 1) 講演会・新年会の結果報告 2) 総会の準備について(役員改選) 3) 各委員会活動について</p>
---	---	--	---

画



会員レポート

「ニューヨーク世界貿易センタービルの崩壊」

(有) アスカ設計 明智 孝夫

JSCA千葉の新年会に伴う講演会として平成14年2月13日に『ニューヨーク世界貿易センタービルの崩壊』について、(株)山下設計の岡本隆之祐先生を講師として開催されました。事件発生から5ヶ月のまさにタイムリーな企画で約90名の参加者が会場に溢れる程でした。

講演の内容は、事件から1ヶ月後の10月12日にWTCビルの構造設計者であるロバートソン事務所を訪問し、パートナーであるMr. Dan氏とのWTCビルの崩壊に関しての会見について、説明されました。

WTCビルの構造は、基準階平面が63m×63mで、鉄骨造(内部:極厚H型鋼、柱間隔が6m, 外周:箱型断面、柱間隔が1m)のチューブ構造、地上110階、地下6階の2棟によるツインタワービルとなっていた。

多くの情報によると崩壊の原因として、「外柱と内柱を結ぶトラス梁が弱い」、「柱の継手がボルト接合によるメタルタッチで弱点」が挙げられていたが、いずれも崩壊の直接の原因ではないとの見解でした。

興味深い事は、崩壊の直接的な原因として、飛行機が建物に衝突することによる運動エネルギーと1時間後に飛行機が衝突した部分よりも上の建物が落下して、下の建物に衝突したことによる位置エネルギーによるものであり、また、衝突と同時に大量の燃

本誌は季刊とし年4回の発行を目標としてJSCA千葉の活動状況を報告しています。最近では年3回のペースに落ち込み、申し訳ありません。本紙は、構造技術者の社会的認知、地位向上という目標も大切な使命の一つでありながら、発行数が100部未達と寂しい状態です。そこでこのような紙面が、関心のあるクライアントや一般の方々目に触れる機会を増やすべきだと考えますが、ボランティアで配布に協力してくれる方は、配布先と部数をご連絡下さい。(広報委員会)

料の爆発による熱エネルギーを考慮しなければならぬとの説明でした。

また、ロバートソン事務所によると、飛行機の衝突対策としてB707(今回の衝突飛行機は、B767)の衝突を想定し、外周のある1面の柱の2/3が壊れても耐えられるように設計していたとのこと、日本では風荷重、地震荷重を考慮しているにすぎず、驚異的な考えであると思われました。しかし、このような対策が飛行機の衝突後崩壊までに1時間以上かかり、その間に多くの方が避難できたことになり、我々構造設計者が命題としている『人命を守る建物』を設計するに当たり1つの教訓となった思いがしました。

最後に、今回の講演会を企画していただいたJSCA千葉のスタッフに感謝し、この事件による日本人を含む諸外国人の多く犠牲者に対し慎んで哀悼の意を表したいと思います。

4月15日JSCA千葉主催、千葉県耐震判定協議会後援により「屋内体育館の耐震補強講習会」が開催された。異なる3タイプの補強例について、設計者の設計意図、現地調査や作業の内容について詳しい説明がなされ、委員会での貴重な資料も、秘守義務に配慮した形で配布された。補強設計では複数の策立案をふまえた、詳細な調査となるので、調査に先立ち、建物の特徴と問題点の把握が、特に重要であると説かれた。(安田) 協力 (株) 齋藤建築設計事務所 (有) 市原建築構造設計事務所 (株) タイキ設計

<p>技術委員会 委員長 市原嗣久 第40回より場所を橋市勤労市民センターとし益々活発な活動しております。どしどしご参加下さい。(佐藤)</p>	<p>第41回11月18日(17:00~20:00) 出席、市原委員長他6名。1、だれにもわからない振動解析-2(固有周期-ストドラ法) 第42回12月11日(17:00~20:00) 出席、市原委員長他1名。1、青木建設</p>	<p>(株)による制震ブレース外付け工法の耐震補強説明会。2、だれにもわからない振動解析-3(二層建物の自由振動) 第43回2月28日(平成14年)(17:00~20:30) 出席、市原委員長他7名。</p>	<p>1、技術勉強会年間計画本年度の年間計画についての話し合い。 2、耐震診断基準の改訂に関する情報交換。 3、だれにもわからない振動解析-4(逆行列の求め方) 第44回3月13日(千葉商工会議所)(18:00~21:30)</p>	<p>出席、市原委員長他26名。1、「振動解析入門・限界耐力法入門」講習会 (株)構造計画研究所のご協力による振動解析及び限界耐力の入門講習会(4回シリーズの第1回) 技術委員会参加者募集</p>	<p>技術委員会では、定例の勉強会、見学会、技術情報の交換などの活動をおこなっています。ぜひご参加下さい。連絡先(有)市原建築構造設計事務所市原嗣久(お気軽にご連絡下さい) TEL 043-252-6174 (TEL・FAX 兼用)</p>
--	---	--	--	--	--



会員レポート(2) 「千葉県在住会員 のご紹介」

新年会に出席された6名の千葉県在住のJSCA会員をご紹介します。次のアンケートに答えて頂きました。今回広報の写真は機材故障のためピンボケでしたので、写真を提供して頂いた方のみの掲載となりました。

(1)氏名(2)生年(3)出身地(4)代表作・研究課題など(5)JSCA千葉に望むこと(6)信条・座右銘等(7)私の近況



(1)楠川 邦輔
(2)1941年(3)山形県米沢市(4)帝国ホテルインペリアルタワー、長野オリンピックアイスホッケーA会場、膜・ケーブル構造解析プログラムの開発(5)構造設計者の社会的認知活動(6)天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず

(7)60年という年月の長短について考えながら、新たな展開について模索しているところです。

(1)山田 利行
(2)1941年生(3)東京都千代田区(4)パイロットハウス、文化財保存(5)構造設計者の社会参加(6)身近なところから一歩、出来ることから一歩(7)歴史分野で千葉教会をテーマに学会論文提出、アフガンの支援



活動、再度写真展企画中。

(1)古川 洋
(2)1952年生(3)福島県(4)東金市、千葉市の篠原聡子氏の設計(5)あまり多くは参加できませんが宜しくお願い致します。(6)設計は楽しく(7)JSCA、建築学会、国土交通省のWGに追われています。

(1)望月 利男
(2)1945年生(3)東京都(4)膜構造建築物(例えば、東京ドーム他)(5)構造技術の教育・普及活動(6)情熱・誠実・努力(7)週末はテニスでストレス発散・体力作り。



(1)小川 和昭
(2)1953年生(3)山形県米沢市(4)毛利記念館黒川村、胎内ロイヤルパークホテル、春日部税務署、都営住宅村山団地(5)特になし(6)初志貫徹(7)基準改

正等により計算内容が複雑になって来ているので、仕事の進み具合が遅くなって来た。仕事件数が相当少なくなって来ているのであらゆる方向の仕事をこなしています。

なお、畠山一宏さんからは、「JSCAではお世話になってます。新会員の紹介につきまして、色々事情があり次回にお願いいたします。」とのメールを頂きました。以上順不同でご紹介致しましたが、どうぞよろしくお力添えのほど、お願い致します。(安田)

豊かな技術で未来を創造する

●パイル製品 ●摩擦杭(BF)

Hi-SC、SC、DAM、SL、PHC、MS-ST、TPジョイント(無溶接杭)

●特認工法

SUPERニーディング工法(新高支持力工法 400N-AP)、ニーディング、NEWニーディング、STニーディング工法、DANK、STJ工法(中綱拡大振締め工法)、BFK工法(異形摩擦杭認定工法)

●調査、試験、その他 ●地盤改良工事

地質調査、山留め工事、KBK工法 浅層地盤、深層地盤(MSコラム)



三谷セキサン株式会社

東京本社 〒111-0052 東京都台東区柳橋2丁目19-6(秀和柳橋ビル9階) ☎東京(03)5821-1120(代) FAX(03)5821-1121
千葉営業所 〒260-0027 千葉市中央区新田町7-5(石出ビル2階) ☎千葉(043)242-8778(代) FAX(043)242-5108

事業所: 福井(福井・金沢・富山)、東京(東京・茨城・埼玉・千葉・横浜)、大阪(大阪・神戸・京都・滋賀)
名古屋(名古屋・静岡)、中四国(岡山・高松・広島)、九州(福岡・熊本)